

平成22年度 第1回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成22年度 第1回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成22年5月17日(月)午後1時15分～5時00分
3. 開催場所 木更津市立図書館 小会議室(2階)
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名
金子 馨委員、橘田 昭雄委員、梶山 林継委員、實形 裕介委員、藤平 量郎委員、
野中 徹委員、三浦 茂一委員、須田 昭平委員
教育委員会事務局7名
初谷教育長、鶴岡教育部長、石井次長、能城文化課長、戸倉主幹、浅野副主幹
石川主査
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 (仮称) 図説『木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針について(公開)
議題2 (仮称) 図説『木更津のあゆみ』の内容について(公開)
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(浅野副主幹) 平成22年度第1回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の市史編集委員会は、高崎委員及び永野委員から都合により欠席の連絡がありましたので報告します。なお、会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により会議は成立しております。また、会議は公開で行い、会議録の作成のため録音させていただきますので併せてご了承願います。

事務局(浅野副主幹) それでは、はじめに橘田委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。

橘田委員長 (橘田委員長挨拶)

事務局(浅野副主幹) ありがとうございます。続きまして、初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

初谷教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局(浅野副主幹) 次に、平成22年度の定期異動に伴いまして、職員に異動がございましたので、自己紹介させていただきます。

鶴岡部長ほか (部長以下、各自自己紹介)

事務局長 それでは、議長は委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願いいたします。

橘田委員長 皆さま、宜しく願いいたします。
それでは会議次第により議事に入らせていただきます。
議題1 図説『木更津のあゆみ』編集基本構想及び編集方針について 事務局より説明願います。

事務局（石川主査） （編集基本構想及び編集方針について修正点の説明）

橘田委員長 只今、事務局より編集基本構想及び編集方針（修正案）についての説明がございました。ご意見やご質問があればお願いします。

（意見等なし）

橘田委員長 編集基本構想及び編集方針の修正についてのご意見がないようであれば、事務局の修正案にご承認いただけたものとし、この編集方針に基づき、進めて参ります。

それでは、次の議題へ移りたいと思います。議題2（仮称）図説『木更津のあゆみ』の内容についてご協議願います。

前回の編集委員会で各時代、分野の項目が揃いましたが、その際にグルーピングのテーマなど検討中であった部分について、再検討をお願いしました。また、その後、各班ごとに若干の修正などがあったと思いますので、再確認も兼ねまして各班ごとに順次説明をお願いします。

それでは、はじめに自然班、藤平委員から説明をお願いします。

藤平委員 （藤平委員より自然班の構成内容の説明）

橘田委員長 藤平委員から、自然班の構成内容の説明がありました。前回から変わった点は、「ハス田の四季」を2ページ増やし4ページとし、その代わり「温暖化に伴う新しい生物の出現」の部分を2ページ減らすとのこと。皆様、いかがでしょうか。ご質問、ご意見ありませんでしょうか。

（意見等なし）

實形委員 自然班の割り当てページ数の中で、ページの割り振りを調整することは問題ないです。ただ、自然班のグルーピング、項目のあげ方に気になる点があります。

自然班と他の各班のグルーピング、項目の立て方を見比べますと、統一されておられません。基本的な項目の立て方は、各班とも2ページ、4ページ、もしくは6ページと偶数で構成し、そのページ内で項目の内容について完結するというのが大原則です。これが「目次」となり、分野や時代が「章」、グルーピングのテーマが「節」となり、各項目のタイトルにページを付していきます。

自然班の項目の立て方は、細かくなっておりますので、これをもう少し集約して他の班と統一を持たせることはできないのでしょうか。

橘田委員長 只今、實形委員からご意見がございましたが、項目の立て方、グルーピングについて自然班では他の班と統一されたものに変更はできますか。ということですが、藤平委員いかがでしょうか。

藤平委員 はい。可能だと思いますが、何分、限られたページ数ですので、このような項目立てとなりました。ただ、この場では変更できませんので、今一度、自然班全員で再検討させていただきます。

橘田委員長 自然班に持ち帰り、班員で再検討していただけるとのことです。よろしくお願ひします。

他にご意見ございませんか。無いようであれば、次の原始古代班の説明を戸倉主幹お願ひします。

事務局（戸倉主幹） （原始古代班の内容構成等の説明）

橘田委員長 戸倉主幹より、原始古代班の構成、内容等の説明がありました。何かご質問ご意見はありませんか。

須田委員 「小櫃川流域の覇者」のところの6番目の木更津黄金時代 ー光り輝く金の鈴ーというタイトルを付けておりましたが、ここで「木更津黄金時代」という言葉の意味は、どういうことを表現したいのでしょうか。ちょっと、誤解されやすい言葉だと感じました。今一度、タイトルを検討した方がよろしいのではないのでしょうか。

事務局（戸倉主幹） 「木更津黄金時代」では、全国的にも有名な金鈴塚古墳のことを取り上げます。金鈴塚古墳の出土品は学術的な重要性が評価されており、また石室内から出土した金鈴などは重要文化財に指定されていることなどから、目次を見たときに興味を引くようなタイトルと考え、「黄金時代」としましたが、読者から誤解を生じやすいタイトルであれば再検討します。

須田委員 それからもう1点、縄文時代の「狩猟革命 ー槍から弓矢へー」も「革命」という

言葉が適切かどうか気になりました。この表現は、学術的、考古学会の中では一般的なのでしょうか。

事務局（浅野副主幹） 縄文時代に狩りの方法が大きく変化しました。それが弓矢の発明です。それまで、狩りの手段は木の柄の先に石器を付けた槍でした。投槍に比べて、石鏃という石器を先に付けた矢を射ることにより、ずっと速く、ずっと遠くへ飛び、的中率もあがったと推測されます。強力な勢いと飛距離が得られる弓矢や鏃の発明により、動物の捕獲が槍から弓矢へと変わっていったことは、「革命」という表現でも問題ないと考えられます。

梶山委員 縄文時代に弓矢の発明により捕獲量が格段と上がったことは、大きな事実ですし、考古学の専門書や研究論文等には、「狩猟革命」を使用しているものもあります。しかし、この表現が教科書や他の自治体史等で使用され、行政としての立場から適切な表現であるのかどうか、事務局は調べる必要がありますね。

橘田委員長 「狩猟革命」という表現が適切かどうか問われておりますが、梶山委員のおっしゃるとおり事務局の方は確認し、その結果を踏まえてタイトルを決定してください。

事務局（浅野副主幹） はい。教科書及び他の自治体史を確認し、慎重にタイトルを決定いたします。

橘田委員長 他にご意見、ご質問ありませんか。

梶山委員 縄文土器を語るのに2ページで足りるのか気になりました。縄文時代が約1万2千年続いた中で、縄文土器は早期から晩期までと変遷していきます。木更津でも、すべての時期の土器が出土しており、最低でも土器の流れを追って書かなければなりません。全時期の土器の写真を載せるだけでも、ページを割いてしまうのではないのでしょうか。少なくとも市内から出土した土器は写真を掲載し、写真でも土器の変遷が追えるようにしてください。これ以上、ページを増やすことは難しいようであれば、うまく写真、挿図のサイズ、レイアウト等を考えてやってください。

事務局（戸倉主幹） はい。うまく2ページで納まるように編集していきます。

橘田委員長 それでは、ご意見も出尽くしたようですので、次の中世班の構成、内容等について事務局戸倉主幹から説明をお願いします。

事務局（戸倉主幹） （中世班の構成内容等の説明）

橘田委員長 戸倉主幹から、中世班の構成、内容等の説明がありました。4月から盛本昌広

氏が新たに調査研究員に加わり、5名体制となったとのこと。また、グループピングが決定し、これまで2ページ多かったページ数についても、調整し34ページと修正されました。委員の皆様、何かご意見、ご質問はありませんか。

橘田委員長 タイトルのネーミングが、少々硬いと感じましたが、委員の皆様はどう感じましたか。

事務局（戸倉主幹） そうですね。タイトルにつきましては、もう少し興味が持てるような親しみやすいものを。また、サブタイトル等を付けてわかりやすいネーミングを再検討していただくよう中世班の皆様をお願いします。

橘田委員長 他にご意見等無いようであれば、次の近世班の構成、内容等について、實形委員から説明をお願いします。

實形委員 近世班の方は、前回の編集委員会で説明しました構成、内容等変わっておりません。20項目5人の執筆者、1人が5項目ずつ執筆担当する予定です。

ただし、6月12日に班会議を開く予定ですので、この会議で微調整、変更する点が生じるかと思えます。また現在、班員の意見で執筆者を1人増員して欲しいという要望が出ていますので、この件についても、6月の班会議にて検討しようと思えます。もし、増員するという事になれば、事務局の方でまた事務手続きをお願いしたいと思えます。

橘田委員長 實形委員より、近世班の構成、内容等の説明がありました。近世では執筆者を1人増員したいという要望があるようですが。何かご意見、ご質問ありませんか。

事務局（能城課長） 1点、確認させていただきますが、ご説明のありました構成、内容等で決定した場合、現在お願いしております執筆者のみなさんでは、原稿が書けない項目があるということで、執筆者を増員したいということなのでしょうか。

實形委員 その要望をしている方は、現状、つまり図説『木更津のあゆみ』を書くには問題ありません。先々のことを考えたとき、つまり新修『木更津市史』の編さんが具体的に変わった場合のことを考えると、今のうちから増員した方が良いのではという考えがあるようです。

事務局（能城課長） 現状では大丈夫であるが、先のこと、新修『木更津市史』のことを見越して、そういうようなご意見を持っているということですね。わかりました。

橘田委員長 他にご意見等無いようであれば、次の近現代班の構成、内容等について、三浦委

員から説明をお願いします。

三浦委員 (近現代班の構成、内容の説明)

橘田委員長 三浦委員より、近現代班の構成、内容等の説明がありました。内容、執筆担当者
は変更ないとのこと。また今回は、グルーピングのネーミングが検討中であつ
たところを考えてくれました。グルーピングのネーミングなどについてご意見、
ご質問ありませんか。

藤平先生 今、木更津は、東京湾アクアラインも通り、段々と発展している様子がわかりま
すし、将来が期待されると思います。ですから、先の木更津、木更津の未来像など
も取り上げられれば良いのではないのでしょうか。

梶山委員 確か、当初の編集方針案では、「今からの木更津」や「現在の木更津」といった雰
囲気のものであったのではないのでしょうか。現在、未来の記述がなく、歴史的な記
述だけでよろしいのでしょうか。この点について、事務局の方はどう考えておりま
すか。

事務局（戸倉主幹） はい。当初の方針案では、「未来の木更津」といったもの、未来につながる木更
津像を取り上げる予定でしたが、途中からページ数の関係で割愛してしまい取り上
げなくなってしまいました。

梶山委員 やはり、現在の木更津のことや未来の展望などを例えば2ページでもいいので少
し触れなければいけないのではないのでしょうか。必要だと思います。
このグルーピングの最後に「戦後の社会と文化」とありますが、この中の最後の
6番目「公害被害の発生」の後に設けることはできませんか。

橘田委員長 只今、藤平委員、梶山委員から現在の木更津や未来、展望などを取り上げられな
いかというご意見がありました。三浦委員いかがでしょうか。

三浦先生 そうですね。大変良いご意見をいただきました。班で再検討してみます。

橘田委員長 他にご意見ご質問はございますか。ないようですので、次の民俗班の説明をお願
いします。

事務局（戸倉主幹） (民俗班の構成、内容の説明)

橘田委員長 戸倉主幹から民俗班の構成、内容等の説明がありました。前回からの変更点は、「遊びと娯楽」というテーマを割愛し、更に「祭りと芸能」が4ページだったのを2ページへ変更しました。そして、新たに「衣・食・住」2ページと「人生儀礼」2ページを設けたということです。それから、「きさらづ甚句」のテーマを「民謡とわらべうた」というテーマに変更し、この中で木更津甚句について触れるということです。皆様、ご意見ご質問等ありませんか。

須田委員 童謡の「証城寺の狸ばやし」は、どこかで取り上げるのでしょうか。

事務局（戸倉主幹） はい。2番目の「文芸に見る木更津」のところで取り上げます。

橘田委員長 他にご質問等ございませんか。ないようですので、議題2（仮称）図説『木更津のあゆみ』の内容についての協議を終わります。これから、各班この項目にしたがって、具体的に調査執筆活動を進めていっていただきます。

また、必要に応じて時代の重複する班との調整会議等も行ってくださいようお願いいたします。

それでは、次の「体裁及び執筆要項について」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

事務局（浅野副主幹） （「体裁及び執筆要項について」の説明）

橘田委員長 事務局から「体裁及び執筆要項について」の説明がありました。ご意見やご質問があればお願いいたします。

須田委員 差別用語、差別を助長するような表現のチェックは、実際にはどなたがするのでしょうか。文書表現の最終的な判断をするのはどなたなのでしょうか。

事務局（能城課長） はい。この点が一番難しい、最後の仕上げの作業だと事務局でも認識しております。まず始めは執筆者の意向等を確認し、その後この「編集委員会」にて確認していただきます。そして、最終的には教育委員会議で調整することとなります。教育委員会の調整までに、編集委員会でチェックが入った部分を執筆者に投げて、もう一度修正等校正する。修正した文章をもう一度編集委員会へ送る。といった繰り返しの作業を1年間かけて行います。ですので、原稿の締め切りを来年3月中旬とさせていただきます。執筆者の方々には締め切り厳守をお願いしているところです。

梶山委員 言葉の表現もそうですが、絵図や地図でもそういった問題がありますので、十分に

気を付けてください。

事務局（能城課長） 執筆者の意向、行政的な意向と色々と難しい点だと思いますが、慎重に取り扱ってまいります。

實形委員 執筆要項は、執筆者の頭にすぐ入るように複雑ではないものが良いです。実際に細かな文言等の統一は、事務局の方で編集・校正してください。

橘田委員長 執筆要項は、簡潔、単純なものが良いとのこと。事務局の方でしっかり、編集作業をよろしく願いますということです。

他にご意見ございますか。ご意見ないようですので、「体裁及び執筆要項について」は、本日の検討結果を踏まえた「執筆要項」に基づき執筆活動を進めていただきます。

以上で、予定された協議事項は終わりましたが、他にご意見ございますでしょうか。

ご質問ないようであれば、本日の議事は以上で閉じさせていただきます。委員の皆様には、長時間にわたりご審議をいただき誠にありがとうございます。

事務局（副主幹） 以上を持ちまして、平成22年度第1回木更津市史編集委員会を終了させていただきます。お疲れさまでした。

平成22年5月17日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄